

親子の居場所づくり事業

〈共育ち・共育て〉

宮城県岩沼市 特定非営利活動法人ちびぞうくらぶ

スタッフ10名・現在参加者40組(随時加入)から構成される団体で「出逢う・繋がる・共に育ちあう」を根底に置き、同世代の交流・世代間交流・障がい者との交流・被災者の居場所作りを理念に掲げ「共育ち・共育て」を目的としながら活動している。宮城県岩沼市に拠点を置くわたしたちは未曾有の東日本大震災を経験した。繰り返しされる日常は当たり前ではないことを知り、被災者もそうでない者も互いに認め合い支え合いながら暮らす、それが地域に根差す当団体の理念となった。

特に力を注いでいることは、乳幼児親子の居場所づくりだ。月に一度開催しているサロンでは、講座や運動、ワークショップや遠足など様々な取り組みに加え、日々の悩みや我が子の成長を語らいながら育児ストレスを軽

減し子育てのヒントとなるような情報提供と支え合いシステムの構築を目指し活動している。また、住み慣れた地域、初めての土地でも子育てに喜びと自信が持てるよう相互的交流を行い笑顔になるきっかけをサポートし地域活性化の一助を担っている。コロナ禍で露呈した、人との距離感が分からないという親子に対してはスタッフが親子と親子の間に入り共通部分を見つけ繋ぐ役割を果たしている。スタッフ一人一人が参加者にとって頼れる存在であり先輩ママとして支えている。また震災を経験したスタッフはその対象者の身近な相談相手となり、今を楽しみむきかけを与え続けている。

近年は核家族化や共働きの増加など社会構造の変化により、子育てをめぐる環境も変化



外の空気をいっぱい吸って、ふれあい遊びを楽しみます。転入してきた親子に、公園などを知らせ、地域で暮らしやすくなるよう情報提供をします





手先に集中できるワークショップは人気です。お子さんはスタッフや地域の高齢者が見守ります。抱っこをせずに作品作りに集中できるって本当にいい時間！



月に1度のサロンの日。お子さんだけでなく、ママのお名前も呼びます。皆さん一人一人がちゃんとしっかり主役です

がめまぐるしい。地域で子育てを支える力が弱くなってきていることで、「孤立」という言葉をよく耳にする。

そこで、ちびぞうくらぶでは「困ったら他の人の力を借りていい」「自分が誰かの役に立つ」という共に支え合うことのできる社会づくりに着目してきた。もちろん、支え手側だけによる育児の肩代わりではなく、一緒に同じ方向に歩むことで子育ての喜びや自身の生きがいを取り戻し子どものより良い育ちを実現できるよう整えていくことを目指している。受け手側も自身の経験を未来に繋いでいく、その繰り返しこそが「支え合い」であり、子どもたちに継承していききたい姿であると考えている。おとなが手を取り合えば子どももその真ん中で笑顔になり原体験となって優しい社会が実現できると信じて活動している。

岩沼市の沿岸部は震災により甚大な被害を受け集団移転を余儀なくされた。人の住めない環境となった場所は現在「市民農園」として人々に親しまれている。かつては沢山の人の暮らしがあつたその土地で、ちびぞうくらぶは畑を借りて季節の野菜を育てている。植え付けから収穫までの過程は子育てと一緒に。手をかけすぎてもストレスに弱くなり、放置しては枯れてしまう。「いい加減」が難しい。被災した高齢の住民が「畑の先生」になり、



田植えから稲刈りまでの作業を行いました。主食である米が食卓に並ぶまで、沢山の作業工程や人の手が加えられていることを身を持って体験しました



鍬を持って一生懸命に耕します。子育て中の運動不足の解消にもなり、「鍛エクササイズ」と親しみを込めながら向き合っています

野菜の育て方のノウハウやコツを教えてください。

決して立派な実を付けなくても収穫までのプロセスが大事で、親と子が一緒に土をいじり、四苦八苦しながら向き合う交流も魅力のひとつ。愛情いっぱい育て、やっと収穫できた野菜は、芋煮会やカレーパーティー、ピザづくりなどに使用し美味しくいただいている。手にまめを作りながら鍬を握り、水やりの調節等に頭を悩ませた時には小動物や鳥の恵みになってしまいが、全てひっくり返して収穫まで辿り着けた喜びはなにもにも代えがたい大きな喜びだ。美味しい野菜は皆を笑顔にし、苦勞が報われる瞬間をも味わわせてくれる。冬の農閑期には室内で白菜キムチを作

り沢山の人に食べていただいた。とても好評



沿岸部で活動する「はたけ部」が愛情いっぱい育てたハーブをソルトにしました。美味しく仕上がるたびに震災からの復興を感じます。色々な出来事を経て今の幸せがあることを決して忘れないうえに、そして伝承させていきたいです

なので加工品として市販化できるよう準備を進めている。

いつも誰かのひとことが誰かの原動力となり前を向くきっかけとなるように、日常の何気ない繰り返しは人と関わっているからこそ体感できる生きた教材となっている。この活動は被災住民にとっても「その土地を忘れない」前を向く原動力となり相互に良い関係を築いている。震災を風化させず伝承していくという大切な役割をも担っており、今後も皆で一緒にこの土地で生きていきたい。

わたしたち「ちびぞうくらぶ」の元気の素は、まさに人との繋がりが。高齢者の知恵を拝借しながら若い人のパワーを集めて地域を盛り上げていく、そして障がいのある人も個性として受け入れ困った時は寄り添い助け合う、その繰り返しで日常に彩りを与えてくれるだろう。スタッフはアイデアを出し合い伴走していく役割を担い、今後も常にワクワクしながら人と関わっていききたい。

このように、当団体では親子の居場所づくりに着目し、地域に根差しながら共育・共育てができるようサポートしていく。また、子育て分野に限らず企業や団体と繋がりがちびぞうくらぶの応援団を増やしていくのも目標だ。任意団体から法人化し10年の節目を迎え



子ども食堂とコラボしてお弁当を提供しました。若いママと小さい子どもたち、そして高齢者との関わりを大切にしています。食で繋がる笑顔の輪をこれからも紡いでいきます☆

た。これからも楽しく面白いちびぞうくらぶらしい活動を継続していきたい。

全国の皆さん、どうか一緒に皆さんの地域を盛り上げましょう！暗いニュース悲しいニュースが多いこの頃ですが、そんな時こそ隣の人に声をかけ笑顔の輪を広げていきましよう！！

(特定非営利活動法人ちびぞうくらぶ)

代表理事 三浦末穂